

Innovation
for
Investors

日経ヴェリタス

THE NIKKEI VERITAS

売掛債権、株と低相関 信用リスクは抑制

チー・カン・ケン

ジークフリード・アセット・マネジメント 会長兼C I O



Chi Kang Kung

1999年に台湾の投資銀行コア・パンフィック・セキュリティーズ入社。15年にジークフリード・アセットの前身ジークフリード・キャピタル・パートナーズを設立。18年に同社会長兼最高投資責任者（C I O）。南開大学経済学院で経済学の博士号を取得。

——サプライチェーン・ファイナンス（SCF）戦略の日本での受託残高が増えている。

「9月に2000億円を突破した。株や債券との連動が低く絶対リターンを求める点が、2022年の不安定な相場で投資家にとって魅力のようだ。リスク管理に厳しい銀行から特に人気だ」

「18年の設定来、デフォルト（債務不履行）はなく、月次リターンがマイナスになったことがない。この点も守りの姿勢を

の中小企業が、日米欧などの大企業に輸出する際の売掛債権に投資する。取引相手は米シスコシステムズやコストコ・ホールセール、日本のソニーグループ（6758）、ドイツのシーメンスといった格付けがトリプルBプラス以上の有力企業のため、デフォルトリスクを抑えられる」

「一方、輸出企業の資金需要は旺盛で高い利回りを得られる。リスクと利回りの源泉が分かれており、信用格付け対比で

と、一般的な社債などの満期より短い。ドル建て債権に投資し、為替リスクはとっていない」

——SCF戦略のファンドが増えてきているようです。

「伝統的に資金提供を担ってきた銀行は規制やマネーロンダリング（資金洗浄）対策で貿易金融から撤退している。一方、技術革新で貿易の資金決済の自動化やデジタル化が進み、ファンドなど新たな資金提供者が台頭している」

ファクタリング会社を間に入れ、詐欺や信用リスクなどを管理している。万が一デフォルトした際には保証を担ってもらうという強みがある」

——新型コロナウイルスやウクライナ戦争など、貿易の障壁となる出来事が起きています。

「新型コロナの世界的な感染拡大直後には世界の貿易量は急減したが、数カ月で回復した。ロシアやウクライナの企業は投資対象に含まれていないため、

劣化のリスクも負っていない」

——アジアの中小企業の資金需要の見通しは。

「今後も高まるだろう。現地の銀行は大企業や国営企業向けの融資を優先する傾向にあり、中小企業は融資を得にくい。米国の金融引き締めによるドル高と現地通貨安が輸出を増加させ、資金需要は増している」

「世界の中小企業の資金需要に対する供給不足は数兆ドル規模に上り、アジア圏が過半を占め